Yaita vol.1175 広報やいた 2024 年 11 月号

CONTENTS　目次

2　特集　矢板の未来は大丈夫？の巻
8　地域おこし通信・ヤイタゴハン　ほか
10　子育てひろば・図書館へ GO ！　ほか
12　今月のニュース＆トピックス
14　はつらつ通信
16　市からのお知らせ
28　ゆかりびと・編集後記

COVER　表紙の写真

表紙で、ともなりくんの隣にいるのは、市民の日推進マスコットのポッポちゃんです。ともなりくんの人気に押され登場頻度が減っていますが、今月号ではともなりくんと共に活躍します。今後もときどき登場しますので、お楽しみに！

POPULATION　人口（10 月 1 日現在）

30,216 人	（△58）	出生	16 人
男 15,052 人	（△28）	死亡	34 人
女 15,164 人	（△30）	転入	41 人
13,391 世帯	（△15）	転出	81 人

（　）内は 9 月 1 日との比較
△は減
※住民基本台帳をもとに算出

特集
矢板の未来は大丈夫？の巻

今月号では、令和 5 年度の決算状況に触れながら、矢板市の財政状況を考えます。

おや？なんだかポッポちゃんの元気がないみたいです。どうしたのでしょうか？

◆令和 5 年度決算概要◆

歳入　矢板市に入ってきたお金

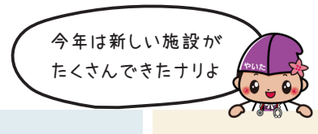
166 億 4,528 万円

文化スポーツ複合施設の建設や泉きずな館・城の湯温泉センターの改修工事などがあり、大規模な建設事業に伴う国からのお金（国庫支出金）が増加するなど、全体としては前年度より 11 億 4,387 万円増加しました。

歳出　矢板市が使ったお金

159 億 9,832 万円

コロナ禍の収束などにより減少したものもありましたが、こども医療費現物給付の対象年齢拡大や文化スポーツ複合施設の建設、城の湯温泉センター・泉きずな館の改修工事などにより、建設関係の経費が増えたことが特徴的で、前年度より全体で 12 億 1,153 万円増加しました。



文化スポーツ複合施設

老朽化した市体育館と文化会館を廃止する代わりに、2つの機能を併せ持った新たな複合施設として建設した施設。市のスポーツツーリズムの一層の推進と、市民の健康増進への貢献が期待されています。オープン後は、パラリンピック代表選手の強化合宿などでも利用されました。

総事業費	**15 億 7,725 万円**
国から	5 億 3,590 万円
市から	10 億 4,135 万円

城の湯温泉センター

2 号館では、かねてより温泉ポンプの老朽化が問題となっており、その存続と施設の活用方法が課題となっていました。

そこで、スポーツ合宿の誘致などスポーツツーリズム推進のため、宿泊施設の確保を目的に 2 号館の改修を行い、最大 50 人まで対応できる宿泊棟が完成しました。

総事業費	**2 億 745 万円**
国から	1 億 125 万円
市から	1 億 620 万円

泉きずな館

旧泉中学校を改修し、老朽化した泉公民館・泉保育所・郷土資料館と、旧きずな館に入っていた社会福祉協議会・シルバー人材センター・施設管理公社を移転しました。

また、新たに常設型サロンとして「いこいず」を設置し、多世代が交流できる泉地区の中核施設としてオープンしました。

総事業費	**4 億 6,343 万円**
県から	2,000 万円
市から	4 億 4,343 万円

その他の主な新規事業

- **デジタルバリアフリー推進事業**
  デジタル市民講座（スマホ教室）など　**151 万円**
- **新エネルギー利用促進事業**
  家庭のゼロカーボン補助金など　**1,457 万円**
- **中学生放課後学習塾事業**　**431 万円**
- **こども医療費現物給付拡大事業**　**1 億 2,228 万円**

黒字分のお金はどうするの？

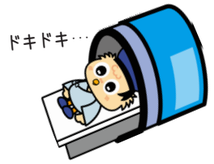
6 億 1,300 万円

歳入－歳出で出た黒字分は、令和 6 年度予算に繰越金として編入されています。

このほか決算の詳細は、ホームページをご覧くださいナリ～!!

ホームページ

◆指数で分析する矢板市の財政力◆



財政の状況を確認するとき、その健全度を測るための指数があります。それぞれの指数と共に「矢板市の財政の今」を診ていきます。

①財政力指数　0.64

財政の強さを数値化した財政力指数（基準財政収入額＊1÷基準財政需要額＊2）は、3年間の平均値が「1」に近いほど、財源に余裕があるとされ、「1」を超えると、地方交付税（普通交付税）が不交付となります。

【参考】令和4年度の状況

県内市町の平均値	0.70
全国市町村の平均値	0.49
矢板市の値	0.66

現在比較できる令和4年度の状況で見ると、矢板市は県平均を下回っているものの、全国平均を上回る財政力となっています。このことから、県全体としても財政力が高いことがわかります。

②経常収支比率　91.1%

市税などの毎年度決まって入ってくる収入で、毎年度必要とされる経費がどれだけ賄えているかを表した割合が、経常収支比率です。この比率が低くなるほど、市が自由に独自の政策に充てるお金が多いことを表しています。矢板市は昨年度に比べ、その自由度が少し下がったことがわかります。

【参考】令和4年度の状況

県内市町の平均値	88.8%
全国市町村の平均値	92.2%
矢板市の値	89.8%

現在比較できる令和4年度の状況で見ると、矢板市は県平均を上回っているものの、全国平均を下回る数値となっています。

③実質赤字比率　赤字なし

④連結実質赤字比率　赤字なし

一般会計などに生じている赤字の大きさを、標準財政規模＊3に対する割合で表したものを「実質赤字比率」、企業会計を含む全会計に生じている赤字の大きさを標準財政規模＊3に対する割合で表したものを「連結実質赤字比率」と言います。これらの比率が高いほど、資金不足が深刻であることを示しますが、矢板市は黒字決算のため数値化されません。

＊1　基準財政収入額
収入が見込まれる市税・各種交付金を一定の方法により計算したもの。実際の収入額とは異なります。
＊2　基準財政需要額
市が標準的な行政運営をするために必要とされる需要額を一定の方法により合理的に計算したもの。実際の支出額とは異なります。
＊3　標準財政規模
通常見込まれる経常的な一般財源の規模を表すもの。市税・各種交付金・各種譲与税・普通交付税の額などから算出されます。

⑤実質公債費比率　8.4%

実質公債費比率とは、市債（市の借金）の返済額の大きさを標準財政規模＊3に対する割合で表した比率です。数値が小さいほどその負担度合いが少ないことを示しますが、矢板市は早期健全化基準や財政再生基準を大きく下回っているため、健全な財政状況と言えます。

早期健全化基準★1	25.0%
財政再生基準★2	35.0%
令和4年度の矢板市の値	8.6%

⑥将来負担比率　数値なし

将来負担比率とは、将来負担すべき市債の残高などから基金残高（市の貯金）などを除いた額が、標準財政規模＊3に対してどのくらいの割合かを示した数値です。

数値が小さいほど将来の負担度合いが少ないことを示しますが、令和5年度については、基金残高の増加により数値化されませんでした。

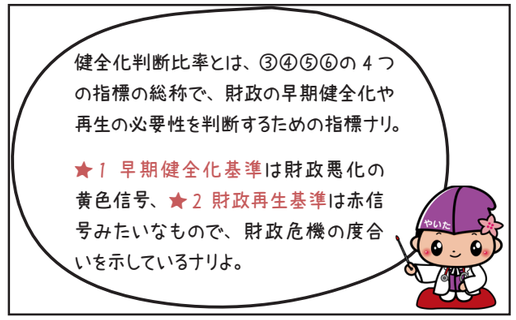
早期健全化基準★1	350.0%
令和4年度の矢板市の値	7.3%

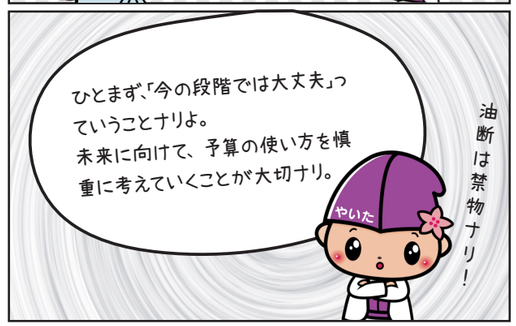
●診断結果●

現状、大きな問題点はありません

健全化判断比率の指標については、全て基準を下回っているため、健全な財政状況と判断できます。特に将来負担比率は、貯金の増加により令和4年度決算から大幅に改善しました。一方、経常収支比率では、近年約90%前後で推移していることから、柔軟性を欠いた財政運営を強いられていることが分かります。

令和6年度は、子育て世帯への支援を拡充するほか、スポーツツーリズムの推進、インフラ整備などに取り組み、限られた財源を効果的に活用しています。今後も財政の健全化を測り、持続可能な財政運営に努めていきます。





◆今後の矢板市の状況◆

●人口減少・少子高齢化

全国的に人口減少が進んでいますが、矢板市の推計人口も昨年 10 月に 3 万人を下回りました。今年 4 月には、若年女性人口が 2020 年から 2050 年にかけて 50％以上減少すると見込まれる自治体を指す「消滅可能性自治体」に初めて該当となってしまいました。今後は特に、税金を納めて市を支えてくれている世代の人口が減ることが見込まれ、厳しい財政状況が予想されます。これまでの移住定住施策は、ある程度の成果を上げているものの、より一層パワーアップした対策が必要とされています。

●今後控えている大型事業

老朽化施設の解体工事

解体・撤去施設、続々

公共施設は、「公共施設等総合管理計画」に基づき統廃合を進めており、文化スポーツ複合施設などの新施設は、旧施設を廃止することを条件とした市債を活用しています。今後は、昭和 56 年に建てられた文化会館をはじめ、旧泉公民館や泉保育所、泉はつらつ館など、たくさんの施設の解体・撤去工事が控えています。

大きな負担増

新施設建設には、国・県の補助金などがある一方、旧施設の解体は、基本的に市の費用となるため、負担が増える見込みです。

新たな庁舎の建設

竣工後 62 年が経過

昭和 37 年に竣工した矢板市役所本庁舎は、老朽化が著しく耐震基準も満たしていない現状です。大きな地震時に、甚大な被害を受ける可能性が高く、早急に建て替えが必要とされています。

現在、本格的に検討中

学識経験者や市民代表を構成員とした検討委員会を立ち上げ、これまで 7 回にわたり会議を重ねました。現状や課題を確認し、新庁舎の適正な規模・機能・場所などについての基本構想をまとめるため、さまざまな意見を出し合い、検討を行っているところです。

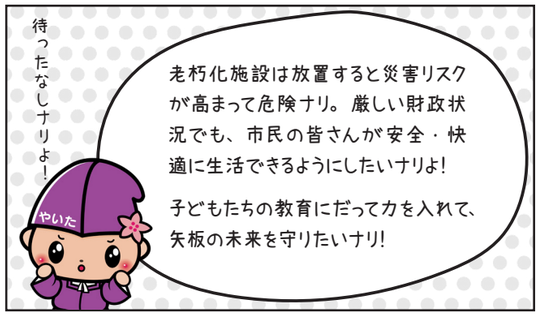
教育施設整備事業

子どもたちの学びを充実

コロナ禍に一斉導入した児童・生徒用タブレットの入替時期が迫っています。未来への投資と位置づけ、今後は AI 活用も視野に入れた教材を積極的に導入するなど、未来を担う子どもたちの教育環境の整備に、より一層力を注いでいきます。

老朽化した校舎の更新

小中学校の中には、竣工して 50 年以上経過している校舎を使用している学校が多くあります。現場のニーズを見極めながら、順次対応が必要とされています。



◆市民の皆さんの力が必要です◆

今後さらに人口減少・少子高齢化が進み、医療費をはじめとした扶助費の支出はさらに増えると予想されます。市の成長期に整備された小中学校・公民館などの公共施設は、老朽化が進み、改築・改修工事費などの費用も必要になる見込みです。

そんな中今年 4 月、「消滅可能性自治体」に該当となり、厳しい財政状況にあっても人口流出を食い止める対策が急務となったり、新たな雇用・経済を生み出すべく新産業団地を整備するなど産業振興を進めたりする必要もあります。

これらの状況を乗り越えるためには、市の財政状況を市民の皆さんにも理解していただき、課題を共有した上で市政運営を進めることが大切です。老朽化した施設 1 つにしても、「同じような規模のものが必要なのか」「別の施設と統合するのはどうか」「維持修繕費に充てるため、利用料金を値上げするのはどうか」など、どうすれば未来に大きな負担を残さず、皆さんに喜ばれる市にしていくかを一緒に考えていきたいと思っています。

本当に必要なものを共に考え、優先順位をつけていきながら、皆さんにとって住みやすい持続可能な矢板市を目指したいと思っています。興味を持ったことからで構いません。矢板市はあなたのご意見をお待ちしています。

ご意見をお待ちしています

●矢板市総合戦略策定検討委員を募集

将来のまちづくりの指針となる次期総合戦略を策定するため、計画の素案作りを行います。

詳しくは 16 ページをご覧ください。

●市政へのご意見

手紙やメールで市に意見を届けることができます。手紙の専用用紙は、矢板・片岡公民館、図書館、泉きずな館、生涯学習館、市民課窓口に設置しています。メールは、市ホームページにある専用メールフォームより送付できます。

ホームページ

問い合わせ／秘書広報課　☎（４３）３７６４